

2008年4月6日

[ルート] 唐川沢⇄折紙山

[参加者名] CL HISOBE 他 17名

[コースタイム] 合浦公園駐車場 7:05→みちのく道料金所手前駐車場 7:28～7:40→唐川沢
 登山口 8:08～8:16→標高409m地点付近で休憩 8:58→標高574m地点左折
 (高度計565m)9:33→標高710m付近休憩 10:20→標高722m地点
 (高度計725m)10:30→標高890m地点休憩 11:06～11:14→折紙山山頂
 11:40～12:13→標高890m地点 12:33→標高574m地点 13:27→唐川沢登山口
 14:20→料金所手前駐車場 14:41～14:57→合浦公園駐車場 15:19

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

合浦公園で集合し、みちのく有料道路へ向かう。料金所の駐車場に車を止め、林道に降りる。30分ほど川沿いに進む。

[山行記録]

2年前の折紙山の山行と比べて、今年は雪どけがはやいので、どれくらい雪がのこっているか、心配しながら出発した。駐車場から登山口までの林道は、確かに雪は少ないように感じた。2年前に参加したときは、右も左もわからないよちよち歩きの新米の私は、健闘するが、借しくも頂上までは行けず、890mでとどまり、先輩たちが頂上まで行って戻ってくるのを待っていた。今年こそは、頂上まで行きたい、行けるだろうか、という不安と期待



を抱きながら、林道を歩く。キクザキイチゲを3輪、MNさんと一緒に発見。心がなごむ。登山口に到着。急な雑木林を技につかまりながらよじのぼり尾根にとりつく。ここから、急なのぼりがつづく。杉林をつぼ足で歩く。足が埋もれて自力では脱出できず、スコップで掘ってもらい助かるという場面もあった。杉林をぬけ、だんだんと広い尾根になってくる。ゆたかなぶな林。立派な胴まわり。残雪期の快適な尾根歩き。いい気分だ。今日は最高のお天気。

熊らしき足跡を発見。MFさんからトラバース時の足の運び方を教えてもらう。谷側の足は逆ハの字型に、山側の足はめざす方向に置く。初めて知った。ありがとうございます。722m地点での休息時、遠くかすかに野辺地の烏帽子山が見えていることを教えてもらう。出発して、2時間は超えた。目の前に視線をうつして、今日の頂上はあれだろうか、それともまだその先なのだろうか、と思う。頂上まではあと一息ではなく、二息にまちがいないだろうと、地図を見ながら気合を入れる。890m地点に到着。ここから、右に行って



頂上だ。私にとっては、未知の世界。わくわくしながら、進む。快適な尾根歩き。またも、いい気分。頂上に到着。ハ甲田連山がくっきりみえる。体をすこし右に動かすと、おつ湾が見えている。うれしい。ここまでこれた。先輩たちから、今年はこちらまで来てよかったねと声をかけてくれた。ありがとうございます。ハ甲田を見ながら、昼食をとる。すごくおいしい。重くなったお腹を感じつつ、下山する。

報告 Y.NAKAMURA

2009年2月15日

[ルート] 沢山集落⇄榎木森山

[参加者名] CL T.TSUSHIMA 他 16名

[コースタイム] 合浦公園駐車場 9:00 → 戸山沢山集落(登山口)9:20 → 出発 9:40
→ 10:15 休憩 → 榎木森山山頂 11:17(先頭はもう既に到着)...

下山開始 11:30 → 久須志神社 12:25(昼食)12:50 → 12:55 登山口

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

駒込より月見野霊園方面に進むが、変形交差点を左の狭い舗装道路を、沢山集落へ進む。橋を越えると久須志神社入り口の民家前の空き地に車を置く。道路状況 AAA.

[山行記録]

天候小雨、冬季の登山には、あまり快適な山登りは期待ができない。12月、1月と山に関しては休業してましたのに。雪が少ないため、スノーシューをあきらめて、和カンジキを選択する。狭い林道を進み、沢を渡るところに来ました。いつもの時期ならば、スノーブリッジがかかっている、その上を渡ればよいが、今回はコンクリート底の沢を横断する。水流が多いので、靴の中に水が入らないように注意をする。林道の登りにかけて、地面が掘られているので片足を穴にとられる場面もあった。雪の下には空洞があるのだ



高度を上げ林道二股に来るころには、雨から雪に変わってきた。今回は峠まで登らず、伐採道の痕跡をたどる。スキーマのHNさんはこのまま進み、カンジキ隊は尾根に向かっての急登を始める。ところどころ、赤いテープが見られる。榎木森山とその南側のピークとの鞍部よりも、榎木森山の近くの尾根にとりついた。その手前で、まっ白い吹雪の中から、HNさんの声が聞こえたが、ホワイトアウト状態なので姿見えず。取り付いた尾根から上を見ると、先頭の集団が立ち止っていた。山頂はすぐ目の前だったのだ。山頂にて全員集合、吹雪にて下山をしてから昼食と変更をする。アウターの内側は汗にて濡れて、表面は凍りついている。視界30~50mの状態にての撤退。人数の確認を怠らず

雪山でのモノクロトーンの状態では、ウェアは暖色系の「赤、オレンジ、ピンク、黄色」が確認しやすいようだ。「白、黒、グレー」は、水墨画の中では溶け込んでしまいそうだ。なにかあった時は、見つけにくそうだ。...

下山をするにつれて、風は少しずつおさまってきたが、あいかわらず雪は降っている。朝の雨よりはましであるが。ずーと下がって、久須志神社の社殿の敷地内にての昼食となった。雪を避けて杉の木の下にいても、体が冷えてくる。久しぶりの会の山行に参加したら、なまっていた体には厳しい修練であった。



※今回のルートは登りやすかった。最初は峠からの尾根にぶち当たり、以前登ってしまった手前のピークに、登ってしまうのかと思った。しかし、その鞍部の榎木森山の山頂近くの尾根の肩であった。下調べ山行をした、担当者のだまものだったのかな。

報告 T.SAITOU